



GDP の増加と豊かさの幻想

令和7年5月16日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

経済成長が与える豊かさは今日においては幻想である。金融経済が生み出す富が豊かさを独占するものである。

これらは実体経済における豊かさの創造は、企業がシビアな企業経営を求められる中、富裕層における富の創出と貧困層という労働環境に2分するものである。

これら2分化は、中流階級の完全な崩壊であり、彼らは貧困層に自己を与えられるのである。

これらは生活において要求される現実は、過去と同じでないものであり、それらは新たな生活の防御を求められるものである。

これら計画性の要求は、生活において要求される支出において、その自己就業環境とともに既存日本のサラリーマンスタイルはもはや通用しないものであると考える。

これらは、競争と向上という経済の今日の実像において、アメリカスタイルの高学歴とキャリアの追求というそれら現実が適合するように思われる。

これらはまた変化のスピードは想像以上に大きなものであり、企業経営はそれら現実において企業経営を与えられるのである。

これらは経済成長は必ずしも豊かさを与えないことは、経済の実像が、実体経済における豊かさの創造から金融経済における豊かさの創造へシフトしてものであるからと考える。

これがグローバル基準とアベノミクスという現実である。しかし世界経済へ組み込まれる日本経済は、それら新しい基準と変化を否定することはできないのである。

これらは技術と死すシステムの進歩とともに新しい未来を模索するものであり、これらは国家における経済政策の根本的な見直しを要求するものである。